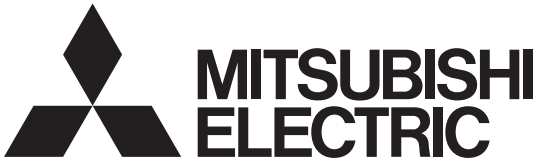


形名	形名コード
GT-BC1	58R111



家庭用自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯機用 浴槽栓連携アダプターセット

形名
GT-BC1

※当社家庭用自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯機専用です。
※適用機種は、当社ホームページに記載しています。

据付工事説明書 (販売店・工事店様用) 工事完了後、本書をお客様へお渡しください。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。
据付工事の前に、この「据付工事説明書」を必ずお読みください。据付工事は販売店または専門業者が施工してください。

【お願い】 • 工事完了後、本書、取扱説明書、保証書をお客様へお渡しください。

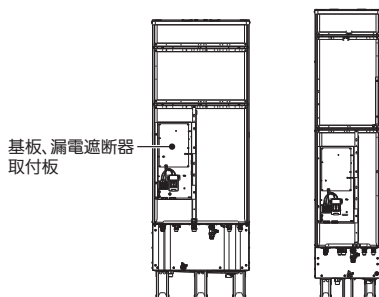
もくじ

	ページ
1. 使用部品	2
2. 外形寸法図	3
3. 接続概要図	3
4. インターフェースユニット取付場所の選定	3
5. 施工上のお願い	3
6. インターフェースユニットの取付方法	4～5
7. 浴槽栓連携システム接続基板の取付方法(タイプ①)	6～7
8. 浴槽栓連携システム接続基板の取付方法(タイプ②)	8～9
9. 据付工事後の確認	10
10. 試運転	11
11. お客様への説明	裏表紙
12. 故障かな?と思ったら	裏表紙

施工種類識別方法 タイプにより、取付方法は異なります。

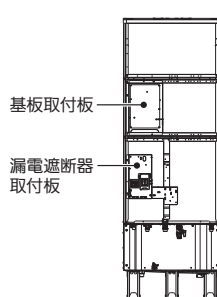
タイプ①

基板と漏電遮断器が1つの取付板に付いているタイプ



タイプ②

基板と漏電遮断器が別々の取付板に付いているタイプ



安全のために必ずお守りください



警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があります。



禁止

□ 機器を浴室など湿気の多い所に据え付けない(漏電による火災・感電の原因)



指示に従う

□ 据え付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する

(お客様ご自身で据え付けをされ、不備があると火災・感電や水漏れの原因)

□ 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」にしたがって第二種電気工事士※1が施工し、必ず、専用回路を使用する(火災・感電の原因)



注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつきます。



指示に従う

□ 必ず貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にしてから行う(感電の原因)

□ 工事作業中は手袋を着用する(金属端面によるけがの原因)

□ 屋外で据え付ける場合は、風があたらない安定した場所に仮置きする(強風によって製品が転倒し、けがの原因)






※1.工場・ビル等への設置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

1. 使用部品

● 同梱部品

インターフェースユニット

形名:IF-UNIT-A-BC1

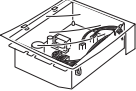





本体 (取付板金付)  1個	木ねじ <4.1×25>  2本	Mねじ <M4×40>  2本	オールプラグ <MILT-8>  2個	Y型端子 <1.25-B3A>  2個
--	--	---	---	---

説明書等

- 取扱説明書
- 据付工事説明書
- 保証書

浴槽栓連携システム接続基板

形名:IF-UNIT-B-BC1

本体  1個	タッピンねじ <4×10>  3本	クランパー①  2個	クランパー②  1個	結線図銘板  1枚	結束バンド  2個
---	---	---	---	--	---

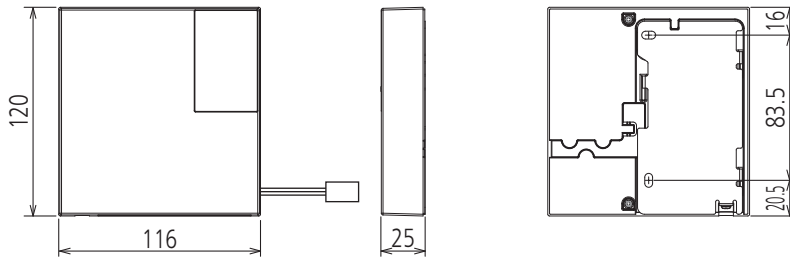
● 別売部品及び一般市販部品

工事前に準備ください。必ず、当社指定部品を使用してください。

工具・部材名	当社別売部品形名、市販品、注意事項等
Y型端子用圧着工具	日本圧着端子製造株式会社製 YHT-2210(JIS 9711規格品)
接続端子用圧着工具	株式会社ニチフ製 NH11
ドライバー(+ 2番)	電気ドライバー及びインパクトドライバーなどは使用禁止です。
通信線③	当社別売部品LM-620B(20m)またはLM-650B(50m) 設置条件に合わせて切断してご使用ください。
PF管 φ16	市販品

2. 外形寸法図

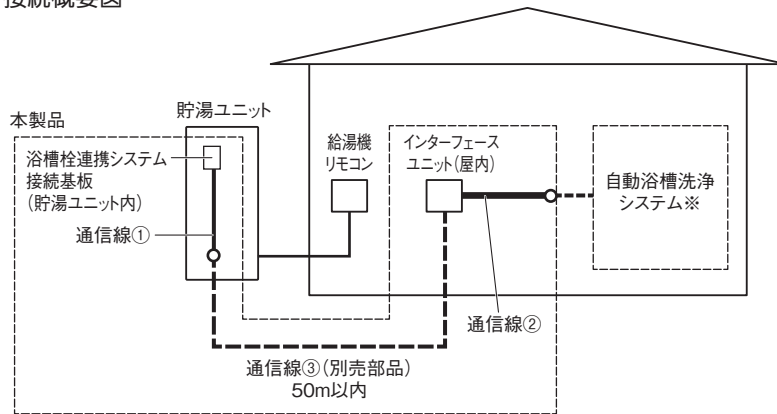
インターフェースユニット



3. 接続概要図

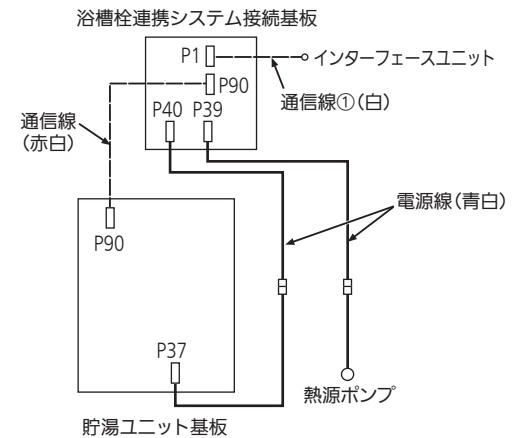
- インターフェースユニットは、平らな面に取り付けてください。(詳細は4項参照)
- 通信線と電源線を一緒にクランパーで固定しないでください。
- インターフェースユニットと浴槽栓連携システム接続基板間の通信線③長を50m以内としてください。
- 当社別売部品以外の通信線③を使用する場合は、当社別売通信線③相当(2芯式、0.3~1.65mm²、67.6Ω/km以下)としてください。

接続概要図



※自動浴槽洗浄システム(おそうじ浴槽®)と洗浄リモコンは専用のシステムバスに含まれます。
詳細はシステムバスメーカーへお問い合わせください。
「おそうじ浴槽」は、株式会社ノーリツの商標です。

結線図



4. インターフェースユニット取付場所の選定

- 必ず平らな面に取り付けてください。(凸凹があると変形して誤動作することがあります)
- 通信線③(別売部品)の長さには制限があります。接続概要図(3項)を参照し、設置場所を選定してください。
- 必ず屋内に取り付けてください。防水タイプではありません。
- 下記の場所には取り付けないでください。
 - 周囲温度が45℃以上になるところ。
 - 発熱する他の機器の近くなどの高温になるところ。
 - 湿気の多いところ。
 - 直射日光のあたるところ。
 - 湯気、水しぶきや油のかかるところ。
- 幼児の手の届くところには取り付けないでください。

5. 施工上のお願い

- インターフェースユニットは、製品重量に十分耐えられるところへ取り付けてください。
- 通信線③(別売部品)が短絡しないように施工してください。
- 通信線③(別売部品)は、周囲の熱による劣化を防ぐため、高温部に触れたり、熱の影響をうけたりしないところに配線してください。
- 通信線③(別売部品)をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管(PF管など)に収め、通信線が傷つかないようにしてください。
- Y型端子及び接続端子をカシメるときは、必ず圧着工具を使用してください。また、圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
- ねじで固定する際、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは使用しないでください。破損のおそれがあります。
- 壁に取付穴を開けて設置する場合、穴端部の凸凹をならし、石膏ボードくず等をきれいに取り除いてから設置してください。
- 貯湯ユニットの配線作業を実施する際は、市販のアースバンドを着用し作業してください。
- 端子接続部の配線は途中接続やより線を使用せず、所定のケーブルを使用し、端子台へ確実に接続してください。

6. インターフェースユニットの取付方法

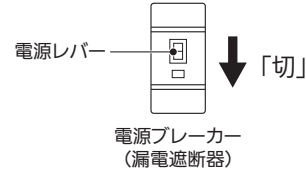
補強板(現地調達)にねじ固定しない場合

※補強板(現地調達)は、自動浴槽洗浄システムの電源ボックスを設置する際に使用する場合があります。

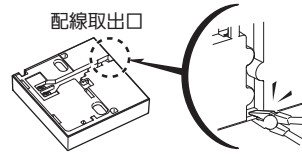
注意

- 必ず貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にしてから行う(感電の原因)
- 工事作業中は手袋を着用する(金属端面によるけがの原因)

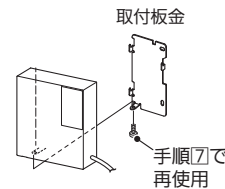
- 1 貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にする



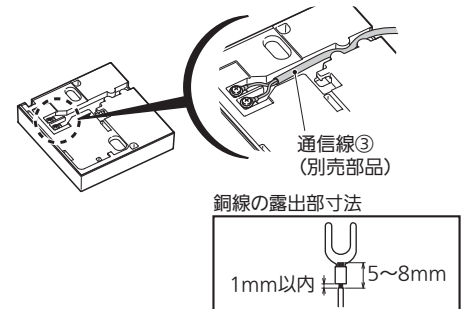
- 2 配線取出口をニッパーなどで切り欠く



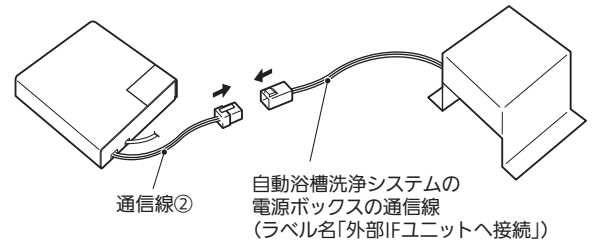
- 3 取付板金をインターフェースユニットから外す
※取付板金は、インターフェースユニットの裏面にねじ止めされています。
ねじは手順⑦で再使用しますのでなくさないでください。



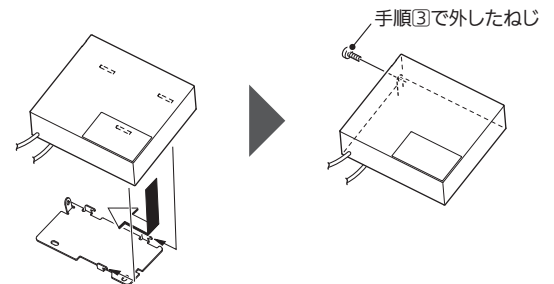
- 4 通信線③(別売部品)を接続する
通信線③(別売部品)を付属のY型端子に圧着して、端子台にねじ止めします。
※締付基準トルク:0.61~0.82N・m
※通信線③(別売部品)圧着時は、引張強度35.6N以上圧着後に確認してください。
※銅線の露出部は、図にしたがってください。
通信線③が短絡した状態で通電すると、インターフェースユニットが故障するおそれがあります。
※接続端子は無極性です。



- 5 通信線②を浴室の天井裏などに設置されている自動浴槽洗浄システムの電源ボックスの通信線に接続する
※コネクタは挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。



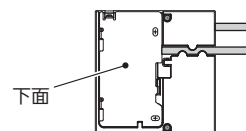
- 6 インターフェースユニットを取付板金に取り付ける
※端子台が露出しないように取付板金は必ず取り付けてください。
※取付板金の金属端面に注意して配線してください。
※通信線が取付板金にかみ込まないように取り付けてください。
※取付場所によっては、多少がたつきがあります。
※取り付けが正しくないと次の手順⑦でねじを挿入できません。



- 7 インターフェースユニットを手順③で外したねじで固定する
※締付基準トルク:0.79~1.17N・m

- 8 インターフェースユニットを設置する

〈両面テープで固定する場合〉
インターフェースユニットの下面に両面テープ等(市販品)を貼り付けて固定してください。

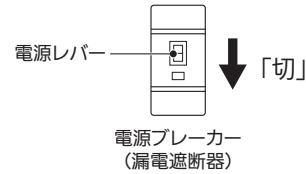


補強板(現地調達)にねじ固定する場合

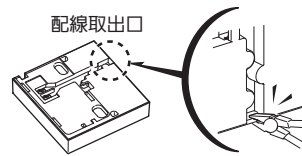
注意

- 必ず貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にしてから行う(感電の原因)
- 工事作業中は手袋を着用する(金属端面によるけがの原因)

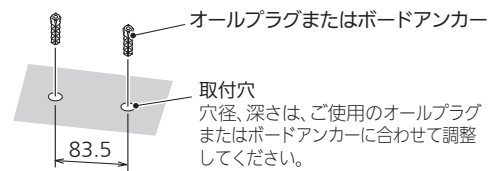
- 1** 貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にする



- 2** インターフェースユニットの取付位置を決める
- ①浴室の天井裏などに設置されている自動浴槽洗浄システムの電源ボックスを設置する補強板(現地調達)などのねじ固定できる位置を決める
 - ②配線取出口をニッパーなどで切り欠く

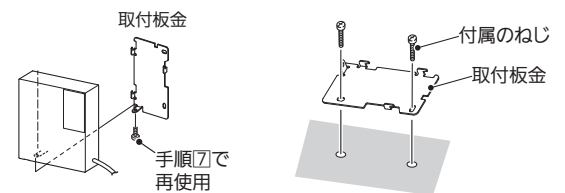


- 〈補強板が石膏ボードなどの場合〉
オールプラグまたはボードアンカー用の取付穴(2ヵ所)をあけ、取付穴にオールプラグまたはボードアンカーを打ち込んでください。



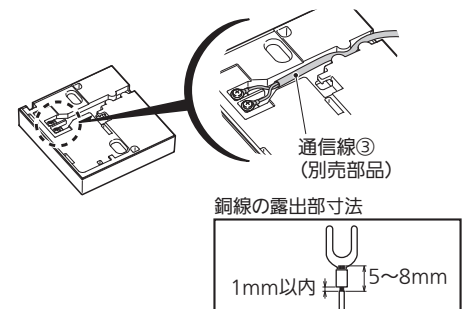
- 3** 取付板金をインターフェースユニットから外し、付属のねじ(Mねじ<M4×40>または、木ねじ<4.1×25>)2本で補強板(現地調達)に固定する

※取付板金は、インターフェースユニットの裏面にねじ止めされています。
ねじは手順⑦で再使用しますのでなくさないでください。



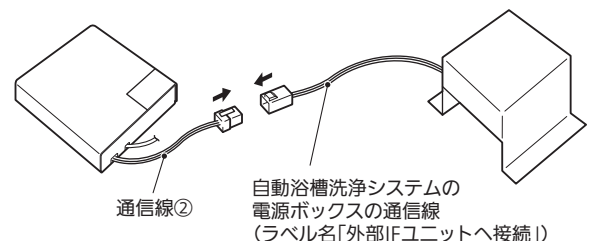
- 4** 通信線③(別売部品)を接続する
通信線③(別売部品)を付属のY型端子に圧着して、端子台にねじ止めします。

- ※締付基準トルク:0.61~0.82N・m
- ※通信線③(別売部品)圧着時は、引張強度35.6N以上圧着後に確認してください。
- ※銅線の露出部は、図にしたがってください。
- リモコン線が短絡した状態で通電すると、リモコンが故障するおそれがあります。
- ※接続端子は無極性です。



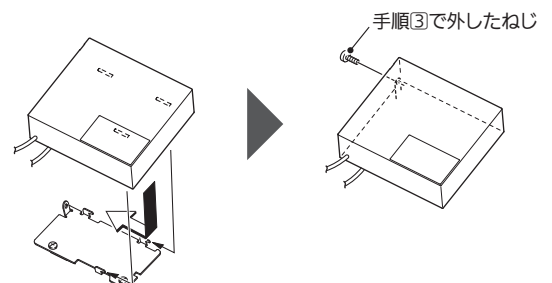
- 5** 通信線②を自動浴槽洗浄システムの電源ボックスの通信線に接続する

※コネクタは挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。



- 6** インターフェースユニットを取付板金に取り付ける

- ※取付板金の金属端面に注意して配線してください。
- ※通信線が取付板金にかみ込まないように取り付けてください。
- ※取付場所によっては、多少がたつきがあります。
- ※取り付けが正しくないと次の手順⑦でねじを挿入できません。



- 7** インターフェースユニットを手順③で外したねじで固定する

※締付基準トルク:0.79~1.17N・m

7. 浴槽栓連携システム接続基板の取付方法(タイプ①)

機種により取付方法は異なります。表紙の図でタイプ①または②を確認できます。

⚠ 注意

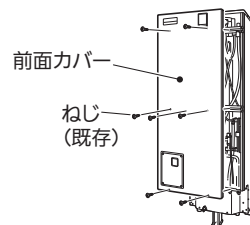
- 必ず貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にしてから行う(感電の原因)
- 工事作業中は手袋を着用する(金属端面によるけがの原因)
- 屋外で据え付ける場合は、風が当たらない安定した場所に仮置きする(強風によって製品が転倒し、けがの原因)

※人体に帯電した電荷を放電させるため、作業の前に貯湯ユニットの脚部など金属部分に触れてください。

1 貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にし、前面カバーを外す

ねじ7本(6本)を外して、前面カバーを上げながら手前に引いて降ろします。

- ※前面カバーにキズをつけないでください。
- ※雨天作業時に貯湯ユニット内に雨水がかからないようにしてください。
- ※表紙の施工種類識別方法の図でタイプ①または②を確認できます。

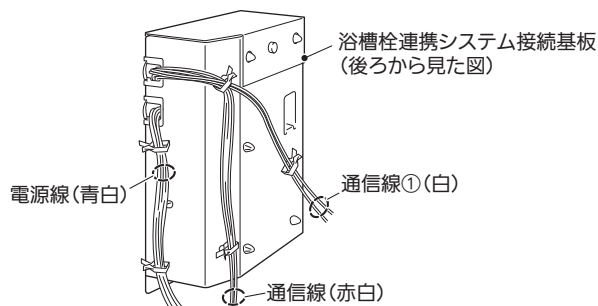


2 浴槽栓連携システム接続基板を取り付ける

付属のタッピンねじ 4×10 2本で固定します。

※通信線①(白)は貯湯ユニット基板の裏側を通し、貯湯ユニット基板の下まで下ろしておきます。

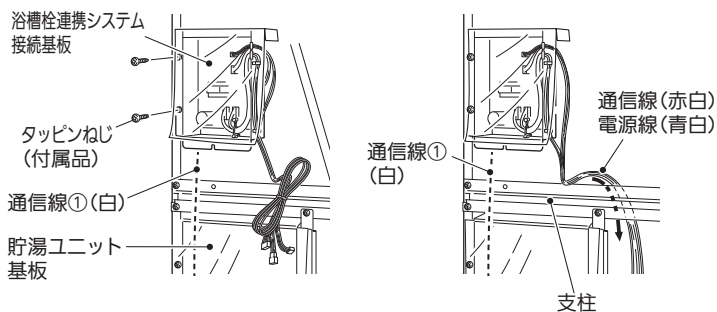
- ※ねじは基板保護カバーと共締めで固定してください。
- ※周辺部品に干渉しないように取り付けてください。



3 通信線(赤白)と電源線(青白)を支柱裏側へ通す

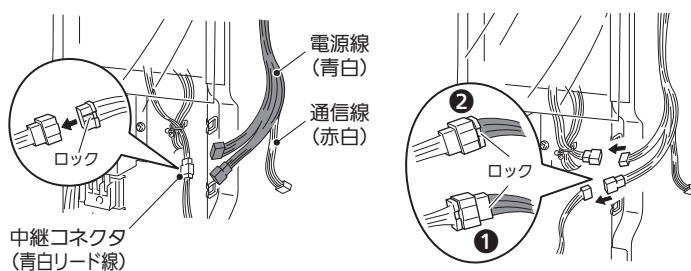
※通信線(赤白)と電源線(青白)を絡ませないでください。誤動作の原因になります。

- ※他のリード線を引張らないでください。
- ※コネクタ部がリード線等に絡まないように注意してください。



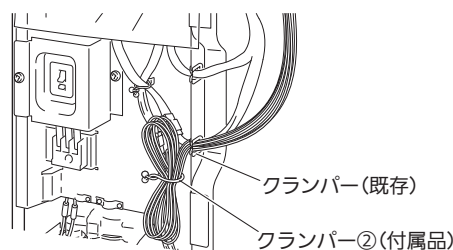
4 中継コネクタ(青白リード線)を外し、浴槽栓連携システム接続基板から引廻した電源線(青白)と2ヵ所接続する

- ※必ずロックを押しながらかけてください。
- ※リード線を引張らずに、コネクタ部を引張って外してください。
- ※①②の順に接続してください。
- ※コネクタには挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。



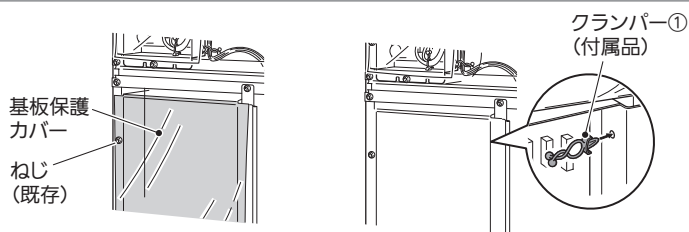
5 ④項で中継したリード線2セットをクランパーで固定する

- ※既存のクランパーに固定されている他のリード線をばらさない(ほぐさない)でください。
- ※リード線はコネクタ付近を固定してください。
- ※余ったリード線は、付属のクランパー②で板金の内側へ束ねてください。束ねたリード線が電源線に接触しないようにご注意ください。



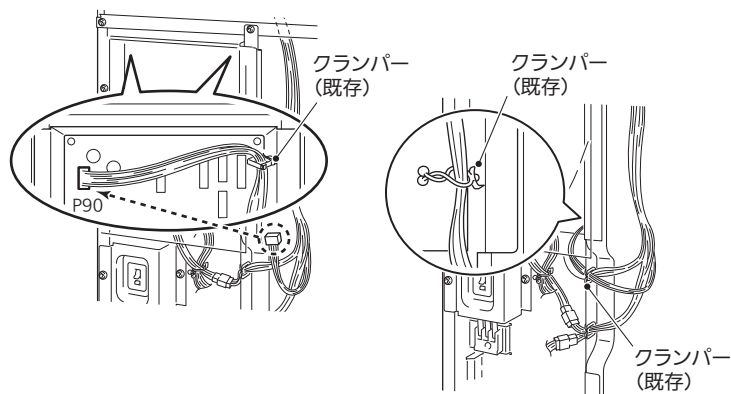
6 <右図の位置にクランパーが付いていない機種のみ> 貯湯ユニット基板保護カバーのねじを外し、付属のクランパー①を板金右側面に取り付ける

- ※ねじを外さずに作業をすると、カバーが破損します。
- ※外したねじの紛失にご注意ください。
- ※基板部品に触れないように取り付けてください。



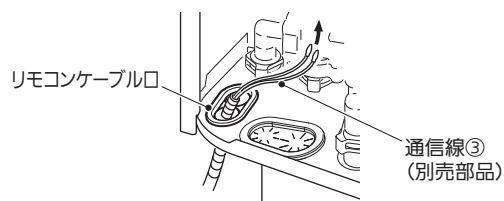
7 浴槽栓連携システム接続基板から引廻した通信線(赤白)を基板コネクタP90に接続し、リード線を図のクランパーで3ヵ所固定する

- ※周辺の基板部品に触れないように取り付けてください。
- ※作業時にアースバンドを着用し作業してください。
- ※コネクタには挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。
- ※クランパーに固定されている他のリード線をばらさない(ほぐさない)でください。
- ※クランパーに固定する際、リード線に張力がかからないようにしてください。
- ※通信線(赤白)と電源線(青白)を同じクランパーで固定しないでください。誤動作の原因になります。



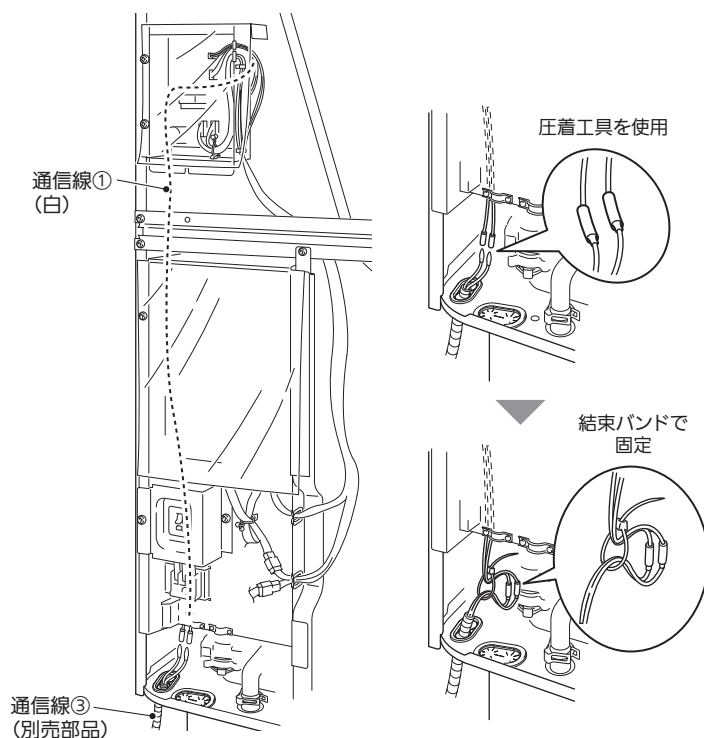
8 リモコンケーブル口から通信線③(別売部品)を引き込む

- ※リモコンケーブル口がパテでふさがれている場合は一度除去し、通信線③(別売部品)引き込み後に再度ふさがります。
- ※リモコン用の線と間違わないように注意してください。エラーが発生します。



9 ②項で貯湯ユニット基板の裏側を通して下ろした通信線①(白)と、⑧項で引き込んだ通信線③(別売部品)とを接続し、圧着部前後を付属の結束バンドで固定する

- ※板金の端面に注意してください。
- ※200V電源線と離して(約50mm以上)ください。
- ※引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
- ※接続部に直接張力がかからないように結束バンドで確実に固定してください。
- ※接続端子は無極性です。
- ※接続端子用手動式圧着工具: 株式会社ニチフ製 NH11



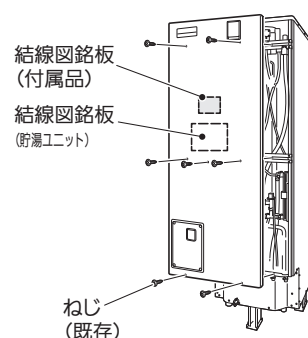
10 ⑥項で外したねじで貯湯ユニット基板保護カバーを固定する

11 貯湯ユニットの前面カバー裏に浴槽栓連携システム接続基板に付属の結線図銘板を貼る

- ※既に貼付してある貯湯ユニット結線図銘板周辺に貼ってください。

12 ①項で外した貯湯ユニットの前面カバーを取り付ける
前面カバーを取り付け、ねじ7本(6本)で固定します。

- ※前面カバーを取り付けるときは、ねじ7本(6本)を確実に締めてください。
- ※締付基準トルク: 1.17~1.57N・m



8. 浴槽栓連携システム接続基板の取付方法(タイプ②)

機種により取付方法は異なります。表紙の図でタイプ①または②を確認できます。

⚠ 注意

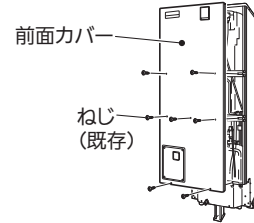
- 必ず貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にしてから行う(感電の原因)
- 工事作業中は手袋を着用する(金属端面によるけがの原因)
- 屋外で据え付ける場合は、風が当たらない安定した場所に仮置きする(強風によって製品が転倒し、けがの原因)

※人体に帯電した電荷を放電させるため、作業の前に貯湯ユニットの脚部など金属部分に触れてください。

1 貯湯ユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー(漏電遮断器)の電源レバーを「切」にし、前面カバーを外す

ねじ7本(6本)を外して、前面カバーを上げながら手前に引いて降ろします。

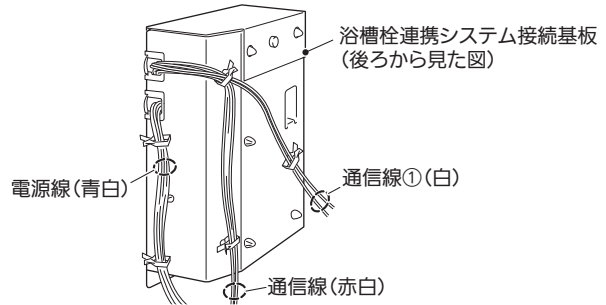
- ※前面カバーにキズをつけないでください。
- ※雨天作業時に貯湯ユニット内に雨水がかからないようにしてください。
- ※表紙の施工種類識別方法の図でタイプ①または②を確認できます。



2 浴槽栓連携システム接続基板を取り付ける

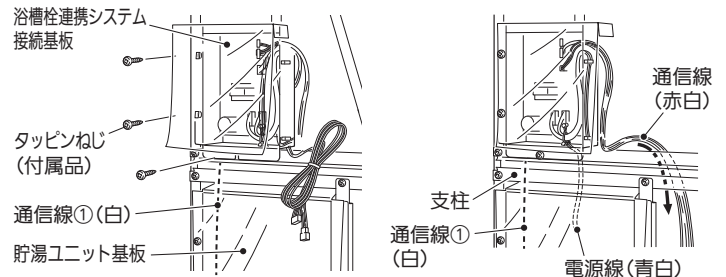
付属のタッピンねじ(4×10)3本で固定します。

- ※通信線①(白)と電源線(青白)は貯湯ユニット基板の裏側を通し、貯湯ユニット基板の下まで下ろしておきます。
- ※通信線(白)と電源線(青白)を絡ませないでください。誤動作の原因となります。
- ※ねじは基板保護カバーと共締めで固定してください。
- ※周辺部品に干渉しないように取り付けてください。



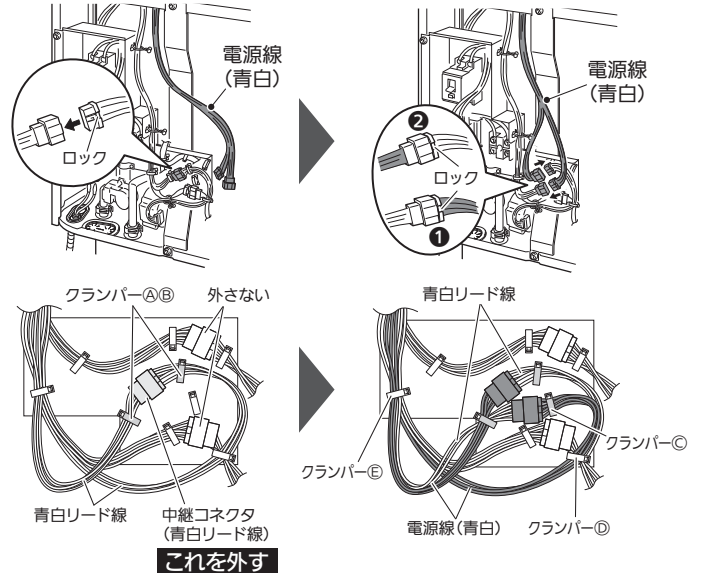
3 通信線(赤白)を支柱裏側へ通す

- ※他のリード線を引張らないでください。
- ※コネクタ部がリード線等に絡まないように注意してください。



4 中継コネクタ(青白リード線)を外し、浴槽栓連携システム接続基板から引廻した電源線(青白)と2カ所接続する

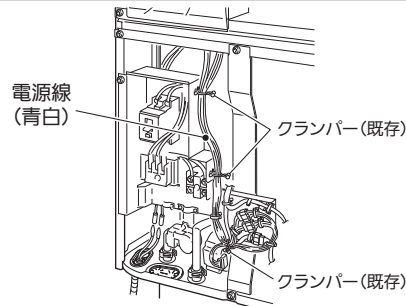
- ※クランパー④⑤の固定を外してから作業してください。
- ※中継コネクタ(青白リード線)のみ外してください。
- ※コネクタ部は、必ずロックを押しながら外してください。
- ※リード線を引張らずに、コネクタ部を引張って外してください。
- ※①②の順に接続してください。
- ※コネクタには挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。



5 クランパー④～⑥へ電源線(青白)を固定する

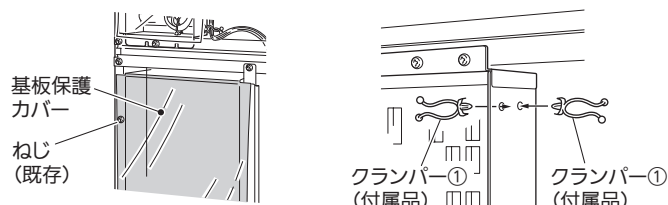
- ※クランパーに固定されている他のリード線をばらさない(ほぐさない)でください。

6 ④項で中継した電源線(青白)をクランパーで固定する



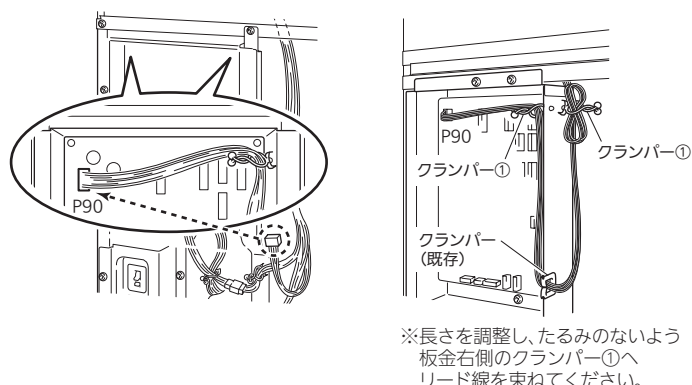
7 貯湯ユニット基板保護カバーのねじを外し、付属のクランパー①を板金右側面に取り付ける(2ヵ所)

※ねじを外さずに作業をすると、カバーが破損します。
 ※外したねじの紛失にご注意ください。
 ※基板部品に触れないように取り付けてください。



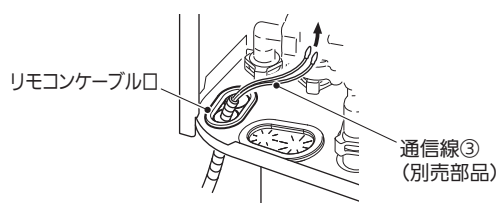
8 浴槽栓連携システム接続基板から引廻した通信線(赤白)を基板コネクタP90に接続し、リード線を図のクランパーで3ヵ所固定する

※周辺の基板部品に触れないように取り付けてください。
 ※作業時にアースバンドを着用し作業してください。
 ※コネクタには挿入方向があります。クリック感があるまで挿入してください。
 ※クランパーに固定されている他のリード線をばらさない(ほぐさない)でください。
 ※クランパーに固定する際、リード線に張力がかからないようにしてください。



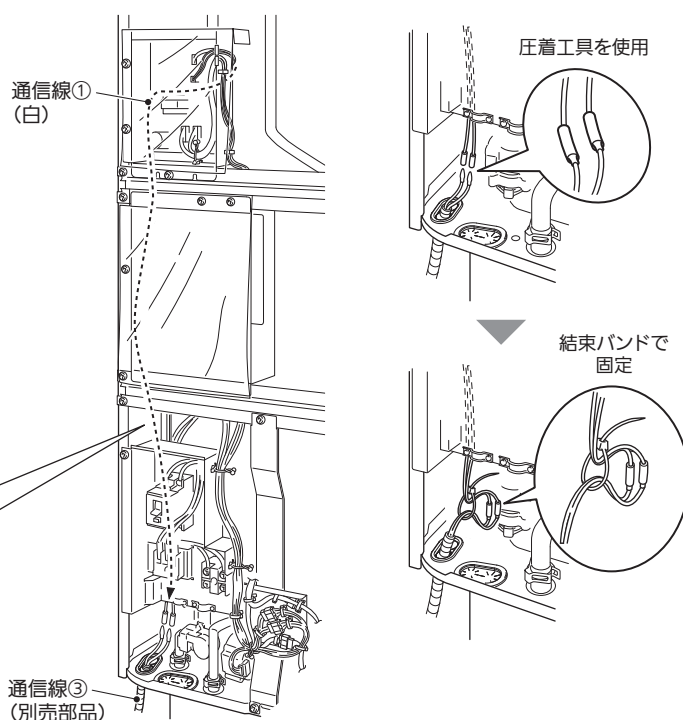
9 リモコンケーブル口から通信線③(別売部品)を引き込む

※リモコンケーブル口がパテでふさがれている場合は一度除去し、通信線(別売部品)引き込み後に再度ふさぎます。
 ※リモコン用の線と間違わないように注意してください。
 エラーが発生します。

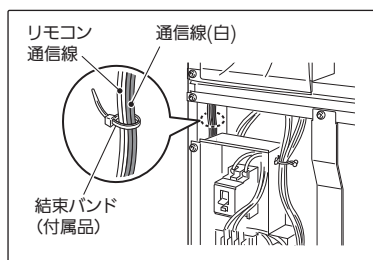


10 ②項で貯湯ユニット基板の裏側を通して下ろした通信線①(白)と、⑨項で引き込んだ通信線③(別売部品)とを接続し、圧着部前後を付属の結束バンドで固定する

※板金の端面に注意してください。
 ※200V電源線と離して(約50mm以上)ください。
 ※引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
 ※接続部に直接張力がかからないように結束バンドで確実に固定してください。
 ※接続端子は無極性です。
 ※接続端子用手動式圧着工具:株式会社ニチフ製 NH11



11 付属の結束バンドで通信線(白)をリモコン通信線に固定する



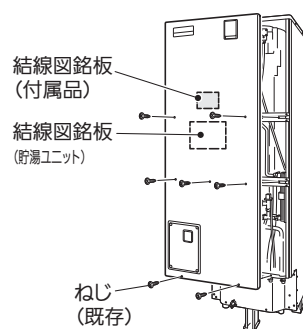
12 ⑦項で外したねじで貯湯ユニット基板保護カバーを固定する

13 貯湯ユニットの前面カバー裏に浴槽栓連携システム接続基板に付属の結線図銘板を貼る

※既に貼付してある貯湯ユニット結線図銘板周辺に貼ってください。

14 ①項で外した貯湯ユニットの前面カバーを取り付ける
 前面カバーを取り付け、ねじ7本(6本)で固定します。

※前面カバーを取り付けるときは、ねじ7本(6本)を確実に締めてください。
 ※締付基準トルク:1.17~1.57N・m



9. 据付工事後の確認

インターフェースユニット

- 通信線②のコネクタをクリック感があるまで差し込みましたか。
- 通信線③(別売部品)の締付けは十分ですか。(締付基準トルク:0.61~0.82N・m)
- 通信線③(別売部品)を確実に圧着(接続)しましたか。(引張強度:35.6N以上)

浴槽栓連携システム接続基板

- ①浴槽栓連携システム接続基板から引き廻したリード線と中継コネクタをクリック感があるまで差し込みましたか。
- ②通信線(赤白)と電源線(青白)を絡ませたり、同じクランパーに固定したりしていませんか。
- ③パテでリモコンケーブル口をふさぎましたか。
- ④通信線③(別売部品)を確実に圧着(接続)しましたか。(引張強度:35.6N以上)
- ⑤貯湯ユニットの前面カバーを取り付けましたか。

10. 試運転

- 貯湯ユニットの試運転が完了していることを確認してください。
貯湯ユニットの試運転は貯湯ユニットに同梱の据付工事説明書の試運転の項目をご確認ください。
- 自動浴槽洗浄システムの電源ブレーカー（漏電遮断器）の電源レバーが「入」であることを確認してください。

①浴室リモコンで、浴槽栓連動が「切」になっていることを確認してください。「入」の場合は「切」にしてください。

ふろ連携Aや浴槽栓連動の設定が「入」の場合、ふろ連携Bを「入」にできません。

機種により番号は異なります。



1 湯量 **—** を3秒以上押す

1.ふろ自動時間
【30時間】

2 給湯温度スイッチ **▲** で「浴槽栓連動」を選ぶ

18. 浴槽栓連動
【切】
ご使用中の設定

- **▲**…1つ進む **▼**…1つ戻る

機種により番号は異なります。

機種	P	S	WB
機能番号	17, 18	15	10

3 「浴槽栓連動」が「切」になっていることを確認する
「入」になっている場合は、ふろ温度スイッチ **▼** で「切」にする

- **▲**…入になる **▼**…切になる

■通常表示(日時表示)へ戻すとき「**—**」を押す
(スイッチを押さなくても、約1分間経過すると通常表示に戻ります。)

②「ふろ連携A」が「切」であることを確認し、「ふろ連携B」を「入」にしてください。

ふろ連携Aや浴槽栓連動の設定が「入」の場合、ふろ連携Bを「入」にできません。



●設定範囲(ふろ連携B)

切:自動浴槽洗浄システム運動なし
入:自動浴槽洗浄システム運動あり
工場出荷時は切

1 チャイルドロックスイッチ **☑** と **急速** を同時に3秒以上押す

1.ふろ連携A
【切】

2 「ふろ連携A」が「切」であることを確認する

※「入」の場合は、ふろ温度スイッチ **▼** を押して「切」にする。

2.ふろ連携B
【切】

3 給湯温度スイッチ **▲** で「ふろ連携B」を選ぶ

- **▲**…1つ進む **▼**…1つ戻る

2.ふろ連携B
【入】

4 ふろ温度スイッチ **▲** で「入」にする

- **▲**…入になる **▼**…切になる

5 チャイルドロックスイッチ **☑** を押す

更新しますか?
▲:YES ▼:NO

6 ふろ温度スイッチ **▲** で更新する

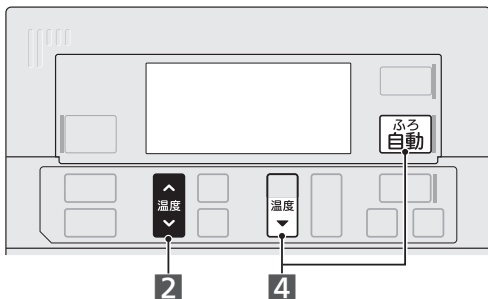
- **▲**…更新される **▼**…キャンセルされる

設定されました

■設定途中で操作を行わない場合、約5分経過すると通常表示に戻ります。
(手順4~6で更新しないと変更した設定は反映されません。)

③湯はり動作の確認をしてください。

手順にしたがい必ず実施し、正常に試運転湯はりが完了することを確認してください。



1 おふろのふたをする

2 給湯機のリモコンで給湯温度を35℃~45℃に設定する

- **▲**…温度が上がる **▼**…温度が下がる

3 自動浴槽洗浄システムで試運転洗浄を開始する

※自動浴槽洗浄システムの試運転洗浄の詳細は、自動浴槽洗浄システムの組立説明書をご確認ください。

4 浴室リモコンのふろ温度スイッチ **▼** と **ふろ自動** を同時に押す

5 浴室リモコンが湯はり準備中となることを確認する

- 「試運転湯はり」の動作前に湯はり準備中となることを確認してください。
 - 湯はり準備中とならない場合は、ふろ連携Bを「入」にしてください。
- ※ふろ洗浄を途中で停止させると、湯はり準備中状態が解除されてしまいます。洗浄が終了するまで待ってください。

ふろ洗浄待ち中
浴槽栓動作待ち中
湯はり準備中
40℃

6 湯はり中に浴槽栓が自動で閉じていることを確認する

- 浴槽栓が自動で閉じない場合は、12項の「故障かな?と思ったら」にしたがって処置をしてください。
- 自動浴槽洗浄システムと連携している場合は、ふろ洗浄及び閉栓後に水(水温よりも少し高い温度の水)による「試運転湯はり」を動作します。

7 湯はり完了音を確認する

■必ず湯はりを完了させてください。
途中で止めると水位を誤検出し、翌日以降の湯はりが正常にできない場合があります。

11. お客様への説明

● 次の項目を必ず説明してください。

- 給湯機からは高温のお湯がでる場合があります。給湯機のお湯を使用する場合は、やけどに気をつけてください。
- 給湯機は、お風呂のお湯を残しておく、ふろ配管の凍結予防運転を行います。
お風呂のお湯を排水すると、ふろ配管の凍結予防運転ができません。自動浴槽洗浄システムを使用して、お風呂のお湯を排水した場合も、ふろ配管の凍結予防運転ができません。凍結するおそれがある場合は、残り湯を排水せず、お風呂のお湯を残してください。

● 据付工事説明書(本紙)及び同梱の保証書、取扱説明書等は、説明終了後、所定の記載事項を確認してお客様へお渡しください。

12. 故障かな?と思ったら

- 試運転が手順通りに完了しない場合は、自動浴槽洗浄システムの据え付け及び給湯機との接続、給湯機の設定が正常に行えていない可能性があります。症状をご確認のうえ、以下にしたがって処理してください。

症状		想定される要因	処置
湯はり開始時に浴槽栓が自動で閉じない		対象の自動浴槽洗浄システムが接続されていない	対象の自動浴槽洗浄システムが接続されているか確認してください。
		接続線が正しく接続されていない	接続線が正しく接続されているか確認してください。
		ふろ連携Bを「入」にできていない	浴室リモコンで浴槽栓連動及びふろ連携Aが「切」になっていることを確認したあと、ふろ連携Bを「入」にしてください。 ※詳細な設定方法は10.試運転を参照してください。
		自動浴槽洗浄システムの異常	システムバスの販売店に連絡してください。
リモコンにエラーが表示される	U31	浴槽栓連動が設定されている	浴室リモコンで浴槽栓連動を「切」にしたあと、ふろ連携Bを「入」にしてください。 ※詳細な設定方法は10.試運転を参照してください。
	P36 (熱源ポンプ異常)	貯湯ユニット基板と浴槽栓連携システム接続基板の配線(電源線(青白))が正しく接続できていない	電源線(青白)の接続を見直してください。 給湯機の据付工事説明書に記載の処置方法をご確認ください。
	U32	自動浴槽洗浄システムでエラーが発生したため、おそうじ湯はリンクが解除されている	自動浴槽洗浄システムの洗浄リモコンと、自動浴槽洗浄システムの組立説明書を確認してください。
	U33	浴槽栓の閉栓を確認できない	浴槽栓に異物が詰まっている場合は、異物を除去し、手動で浴槽栓を閉めてから、再度湯はりをしてください。 正常に動作しない場合は、自動浴槽洗浄システムの組立説明書を確認してください。
	H20 (通信線異常)	貯湯ユニット基板と浴槽栓連携システム接続基板の配線(通信線(赤白))が正しく接続できていない	通信線(赤白)の接続を見直してください。
	H21 (通信線異常)	浴槽栓連携システム接続基板とインターフェースユニットの配線が正しく接続できていない	通信線(白)、通信線③(別売部品)の接続を見直してください。 通信線③(別売部品)が本紙に記載の通信線長、仕様となっているか確認してください。
	H22 (通信線異常)	インターフェースユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ボックスの配線が正しく接続できていない	インターフェースユニットと自動浴槽洗浄システムの電源ボックスの間の接続を見直してください。 エラーが消えない場合は自動浴槽洗浄システムの洗浄リモコンと、自動浴槽洗浄システムの組立説明書を確認してください。
湯はりがすぐに解除される		給湯機でエラーが発生している	エラーコードの内容を確認し、給湯機の取扱説明書の内容にしたがい処置してください。
		自動浴槽洗浄システム内の浴槽栓の配線が電源ボックスに正常に接続されていない	浴槽栓のスイッチ操作を実施し、自動排水栓連動が正常に動作するか確認してください。正常に動作しない場合は、自動浴槽洗浄システムの組立説明書を確認してください。

三菱電機株式会社

群馬製作所 〒370-0492 群馬県太田市岩松町800